

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願 2 0 0 0 - 1 0 2 9 4 3
起案日	平成 1 5 年 9 月 2 日
特許庁審査官	長島 孝志 7 8 2 7 5 N 0 0
特許出願人代理人	徳若 光政 様
適用条文	第 2 9 条第 2 項

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から 6 0 日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第 2 9 条第 2 項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・請求項 1, 2, 5, 6, 8, 9
- ・引用文献等 1
- ・備考

引用文献 1 に記載のものは、NMOS 2 1 によりパッド 1 9 の電位レベルが不定となるのを防止しており、本願請求項 1, 2, 5, 6, 8, 9 に係る発明は、このようなものに基いて、当業者が容易に発明をすることができた程度のものと認められる。

- ・請求項 3, 1 0
- ・引用文献等 1, 2
- ・備考

本願請求項 3, 1 0 に係る発明のように構成することは、引用文献 2 に記載のもの等を参照することにより、当業者が適宜に設計できる事項にすぎないものと認められる。

- ・請求項 4
- ・引用文献等 1, 3

・備考

本願請求項4に係る発明のように構成することは、引用文献3に記載のもの等を参照することにより、当業者が適宜に設計できる事項にすぎないものと認められる。

・請求項 7

・引用文献等 1, 4

・備考

引用文献4の第3頁左上欄第20行～右上欄第2行には、「また、パッドPを使用していない外部端子に接続しておけば、組立後にも不良メモリセル部を予備メモリセル部に置換でき救済できる。」と記載されており、この記載は、とりもなおさず、組立後に不良メモリセル部を予備メモリセル部に置換しないなら、特に、パッドPを外部端子に接続しないということを示唆しているといえるから、本願請求項7に係る発明のように構成することも、当業者が適宜になし得る事項にすぎないものと認められる。

この拒絶理由通知書中で指摘した請求項以外の請求項に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

引 用 文 献 等 一 覧

1. 特開平2-54500号公報
2. 特開昭60-260147号公報
3. 特開昭63-79300号公報
4. 特開昭63-29400号公報

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野 IPC第7版 G11C 29/00,
16/00-16/34

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせがございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第4部 情報処理（記憶管理） 長島孝志
TEL. 03 (3581) 1101 内線3584
FAX. 03 (3501) 0737

LIST OF CITED REFERENCES

Date of the Office Action: September 16, 2003
Date of the Search Report:
Date on which the Office Action or Search Report was received at our office: Date of :
<p><u>List of Cited References:</u></p> <ol style="list-style-type: none">1. Japanese Laid-open No. 02-054500 (corresponding to USP 4,970,686)2. Japanese Laid-open No. 60-2601473. Japanese Laid-open No. 63-0793004. Japanese Laid-open No. 63-029400
Remarks: